

北清企業（札幌市、大嶋武社長、011-799-1100）は、寒冷地でも冬場の利用が可能な高品質バイオディーゼル燃料（BDF）の製造に着手する。同社中間処理施設「北清リサイクルファクトリー」(同)にパイロットプラントを

北清企業

設置。走行試験や酸化安定性などの検証を行うほか、精製後の成分についても夏場の燃料に利用できるかを探る。今回の実証結果や廃食用油の排出事業者などへの検討を踏まえ、新会社の設立も視野に事業化の準備を進める。

BDFは低温で凝固しやすく、冬場の使用は難しいという。同社は07年度、札幌市から補助を受けて、冬場の走行試験を実施。その結果、油種にもよるが、添加剤（流動点降下剤）を用いて、マイナス10度C前後までならBDFを使用できることを確認した。また、寒冷地の北海道では、最低気温がマイナス10度Cを下回ることもあり、添加剤だけでは使用できるのは1月中旬

から1月中旬まで（大嶋社長）という。冬場に利用できる燃料の有効利用につながる。また、高品質BDFを精製した後、約30-40%残る高融点成分についても、BDFとして夏場に利用することもある。BDFの製造技術については、北海道立工業試験場の協力も求める。同社では数年前から、大手小売業、食品・飲料メーカーなどと

高品質BDFを製造へ

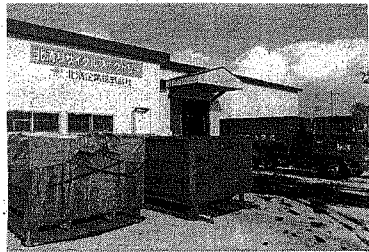
事業化に向け実証開始

「札幌バイオ燃料事業やユーザーなど共同協議会を設立。廃食用油やBDF精製時に発生する副産物「グリセリン」の有効利用につなげる。パイロットプラントはすでに設置済みで、12月末から試運転を行う。低温室、同社は排出事業者系が同2000-1500まで多段階の燃料を切りわけする。

同社は69年に札幌市内で創業。BDFの製造は6年前から行い、主に自社収集運搬車両に利用。現在はCO₂換算で年間約400トンの軽油換算で同約15万

00キロという。事業化に当たっては、日量5000トンのBDF製造プラントを導入する計画。廃食用油の回収から

道から「リサイクル技術研究開発」の補助を受けており、ウィンタリング装置の設計や技術を持つ企業と共同で進める。パイロットプラントはすでに設置済みで、12月末から試運転を行う。低温室、同社は排出事業者系が同2000-1500まで多段階の燃料を切りわけする。



北清リサイクルファクトリー（札幌市）

カーボンオフセットも開始

同社は69年に札幌市内で創業。BDFの製造は6年前から行い、主に自社収集運搬車両に利用。現在はCO₂換算で年間約400トンの軽油換算で同約15万

排出削減して、CO₂排出分と同量を排出事業者に寄付するも、09年には特定加工業に登録し、B5燃料の製造ができるようになった。ユーザーの用途に応じてB5からB100まで多段階の燃料を切りわけする。

大嶋社長は「建設現場などでエコエミヤでいることから、少しでも協力して『カーボンオフセット』と語り、今後も継続して取り組むという。

同社は69年に札幌市内で創業。BDFの製造は6年前から行い、主に自社収集運搬車両に利用。現在はCO₂換算で年間約400トンの軽油換算で同約15万